

VOL.64

2008

WINTER

川崎いのちの電話

Kawasaki inochi no denwa

ひとりで悩まずに ☎ **044-733-4343**



CONTENTS

特集 いのちの現場から

「悲しみを謙虚に受け止める」

インタビュー

若林 一美氏

子どもを亡くした親の会「ちいさな風の会」世話人
山梨英和大学教授

電話相談員2009年度募集のお知らせ

相談員リレーエッセイ

「Herb Tea」ハーブティー

インフォメーション

チャリティー寄席「柳家権太楼独演会」

あなたがつらいとき、近くにいます。



毎月10日は、フリーダイヤル

0120-738-556

毎月10日 8:00～翌日8:00
(24時間・無料です)

2008年4月10日～2009年3月10日

ひとりで悩まないで、こころの苦しみを、お話しください。

自殺予防 いのちの電話

社会福祉法人 川崎いのちの電話

特集

いのちの現場から

悲しみを謙虚に受け止める

子どもを亡くした親の会「ちいさな風の会」世話人
山梨英和大学教授 若林 一美氏 インタビュー「ちいさな風の会」について
教えていただけますか？

子どもさんを亡くした親御さんが集まっている会で、十数名で始まりましたが、今では北海道から九州まで、会員は200名位になりました。会員の年齢、子どもさんの死亡原因、死別からの年月までさまざまな人たちが入会しています。活動は、定期的な集会和対象を限定した分科会、地方集会、年に2回の手記をまとめた文集の発行です。

最近では、兄弟姉妹の死を体験した子どもたちの会を開きましたし、今回は36回目の自死の分科会と全体集会を予定しています。集会ですが、特別に分科会をする時以外はテーマを決めません。基本的に、作画的な形で何かをするということはしていません。話したい人がいたらお話をし、その日の気分であまりお話しなくれば、皆さんがお話になるのを聞いていることもあります。話さなくても安心していられるところだと思います。話さないあなたがここにいてもいいし、その時に思いついたことを話してもいいというところです。話せることは、その方の抱えている問題の、ごく一部のことだと思います。



でも少し口に出したことで、気持ちが楽になるということもあると思います。それもとても大切なことです。その方それぞれが抱えている深さというか、思いはそれだけではない、何層にも何層にもなっている。何をそこに見るかは、人それぞれです。

集会が多い時は50人位で、そうなるといくつかのグループに分かれることもあります。少ない時で三人位の時もありました。とにかくせつかく集会にいらしても一人きり、ということにはならない、もし私でよければ、最低でも二人になる、ということではまったのです。

設立から20年、参加者の意識の変化というのはいま見られますか？

5～6年前から男性の参加者が増えてきました。以前は男性の参加者が少なかったのですが、「男たるもの」みたいな意識があって、家族のために生活費を得、家族を守ることが男の本分と信じて生きてこれたのだと思うのです。しかしお子さんが亡くなって、いったい何のために、どこに向かって頑張ってきたのだろうか、自分の人生観、価値観そのものが崩れてしまった。そういった価値観の崩壊ということに対して、また悲しみそのものに対して、男性は以前であれば、そういった問題そのものに関わっている自分を、外に出そうとはなさなかったのだと思います。男性は感情を出さずに生きていくことをよかれとしていた日本社会の土壌もあったのでしょうか。でも今、男性も、人間としての自然な感情を表現することにためらいはなくなってきたのかもしれない。抱えている問題が自分の中では解決不可能というか、今まで順序立てて、論理立てて人生設計図を描いていた方が、子どもさんを亡くされたことで、どうしていいかわからないということかもしれません。

また自死遺族の方が増えたのも近年の傾向です。私は基本的には遺族の悲しみは、皆同じだと思います。

かけがえのない子どもを亡くした親御さんの深い悲しみは、生涯癒されることはありません。そんな親御さんたちの自助グループ「ちいさな風の会」の世話人を、発足以来、20年続けている若林一美先生に、お話を伺いました。「せっかく会に来て、一人きりにならないように」と必ず会場にいらっしゃる先生が、人の気持ちに寄り添うとはどういうことなのか、気負いのない姿勢で真摯に答えてくださいました。

しかし自死で子どもを亡くした時、理由や動機も含め、わからないことが人々に混乱と悲しみを引き起こします。自分を責める気持ちが強かったり、世間に顔向けができない思いを持ったりなさいます。自死遺族の中には、亡くなったことそのものを家族以外にも言っていない方がいるのは、他の死亡原因で亡くされた方とは違うことかもしれません。

「死」は終わりではなく始まりである、と書いていらっしゃいますね。

それまで信じていたものが全部ゼロになってしまうわけですからね。自分が努力したら報われたり、一所懸命願ったことが叶えられたりする価値観の中で生きてきたのが、どんなに祈っても、どんなに願っても、自分の身に代えて守りたいと思っても果たせないことがある。そういう現実と直面した中で、もう一度自分を立て直さないといけないわけですから。アイデンティティーの危機のなかで、あらためて、自分の存在意義を見つけていかざるを得ないところに立たされてしまうということです。

遺族の方を自助グループ等へ背中を押して連れて行くのはいかがでしょうか？

情報として伝えることは大切なことだと思いますが、当事者にとって、最終的に自助グループへの出席もそうですが、本人が選択したことではないと、あまり意味がないように思います。

別の視点、第三者が働きかける時、見落としがちなことがあります。悲しんでいる人が傍らにいたり、良かれと思い、善意と思いやりから背中を押してあげているつもりなのが相手を傷つけてしまうこともあるのです。その人が今何に苦しんでいるのかに関係なく、決めつけてしまうことがあります。人は、さまざまな思い、痛み、悲しみの中に生きています。例えば亡くなった子どものことを話したくてしかたがない時と、逆に本当に話したくないし、そんな簡単にうちの子どもの名前すら出してもらいたくない、という時を生きていらっしゃることもあるのです。

ただやみくもに、話したほうが楽になると言われても傷つくだけではないでしょうか。その人はその人に備わった時を生きていらっしゃるのだと思います。その人の思いは深く不可解なものです。まして大切な人を亡くした、その人の思いは計り知れないものです。わからないということに対する謙虚さを、つい忘れがちになってしまっているのではないかと。聞いて楽にしてあげようという発想ではなくて、人それぞれの時間の、備わった時があるはずで。

「ちいさな風の会」では、人から、こういう会があるから行ってみない、という形で来る方はあまりいらっしゃらないと思います。図書館に行って本を見つけて来てくださいます。その見つけようとする気持ちになることが、別な言い方をすると、新しい局面に一步を踏み出してみよう、という時なのだと思います。

自死遺族の方に周囲の人は何ができるでしょうか？

当事者は、自分の思いを聞いてもらいたいし、話したいことを抱えていらっしゃるように思います。お話を聞くということは伴走者になるようなことではないかと。伴走者とは、その方の思いの傍らに立つという意味です。でも時によると、アドヴァイスなど、相手に対する思いやりのようでありながら、その人自身の悲しみや痛みを忘れ、一般的な助言や、慰めの言葉をかけてしまったりすることがおきてしまうのです。

その人の思いのすべてを理解できるわけではありません。これは自死遺族に限ったことではありませんが、特に自死遺族の方たちは、日本の社会の中にある偏見とか差別意識の中で、警戒心も強くなり傷つきやすくなっています。普通だったら傷つかないことでも過剰に反応したり、防御反応が出ることもあります。基本的には、その方の体調や心の状態に合わせて、何か一緒にお手伝いできることがあるのだろうかとか問いかけて、伴走者として横に立つことを許されるのであれば、そういう形で立っていくことだと思います。

人それぞれのタイミングもありますし、なんとなくその人との相性というものもあって、できることとできないことがあります。それを無理強いするの

ではなく、その人はその人の悲しみの中に生きていくことを、その人と共に考えながら、もしできることがあるのなら、されたらいいのでは、と思います。

その人の背負っているものを知らないわけですから、知ったふりをするのではなくて、知らないことを謙虚に受け止めることが大切です。

大切な人を失った人にかける言葉がない。でも、いのちの電話相談員としてかける言葉がありますか？

私は、最終的には人は人の立場に立てないと思っているのですが、相手のことを思っただけで心から発した言葉は、相手に届いていくと思います。届くのは1年先か5年先か、10年先かわかりませんが、ただし、自分がその相手を思っていることを、本当に相手のことなのか、それとも自分の内面にあるものが投影して関わっているのか、そのことを常に自分に問うていく必要があると思います。遺族の方の表出された怒りや悲しみがどこから発せられたものなのか。またその言葉や感情に反応している自分の感情はどこから来ているのか。相談員の方たちは、きっとそのことを常に問われていくのでしょ。

表層にある言葉を通して、何を訴えようとしてい

るのか。そのなかには、本人自身の中で自覚化されていないことも多いのではないかと思います。その人の訴えを、できるだけ「あるがまま」に聞きとろうとすることが大切なのではないかと思ひます。



PROFILE

若林 一美(わかばやし かずみ)氏

山梨英和大学人間文化学部教授。立教大学大学院文学研究科教育学修士課程修了。アス・スタアに早くから取り組み、米国ミネソタ大学「死の教育と研究」センターに研究者として留学。子どもを亡くした親の会「ちいさな風の会」(1988年設立)世話人。著書「いのちのメッセージ—生きる魂の教育学」(ナカニシヤ出版)「自殺した子どもの親たち」(青弓社)「死別の悲しみを越えて」(岩波現代文庫)「亡き子へ—悲しみを越えて綴るいのちへの証言」(岩波書店)「アス・スタア—死別の悲しみとともに生きる時」(日本看護協会出版会)他多数。

子どもを亡くした親の会「ちいさな風の会」

資料の請求は400円分の切手を同封して下記事務局へ

〒160-0023 東京都新宿区西新宿4-14-34日(若林一美カ)

相談員募集概要

2009年度(24期生)相談ボランティア(電話相談員)を募集いたします。相談員になるためには、基礎講義と養成講座の1年半の研修が必要です。あなたも参加しませんか？

■ 基礎講義(公開講座) ■

受講資格 20歳以上の方はどなたでも参加できます。
日程 2009年2月19日から毎週木曜日(全6回)
時間 (2/19、26、3/5、12、19、26)
18:30~20:30
受講料 6,000円
会場 武蔵小杉・溝の口周辺(基礎・養成共通)
申込 2009年1月から

■ 養成講座 ■

応募資格：年齢23歳~61歳(2009年4月1日現在)
基礎講義受講のこと
研修期間：2009年5月~2010年8月
研修費用：53,000円(宿泊研修費は別途必要)
申込受付：基礎講義会場にて
※ 詳細は募集要項を必ずご覧下さい

■ 2009年度 相談ボランティア募集説明会

開催時間：18:30~20:30の間に自由に参加下さい。(説明会は申込不要。直接会場にお越し下さい。)

日時	会場	日時	会場
1月13日(火)	ミュージア川崎 会議室1	1月15日(木)	麻生市民館 第3会議室
1月14日(水)	川崎市総合自治会館 会議室	1月20日(火)	高津市民館 第4会議室

■ 前年度公開講座 (今年度の研修内容は未定です)

	研修内容	講師		研修内容	講師	
1	いのちをむかへ、いま、家族とは	山田 太一 脚本家	4	現代社会と青少年	生田 敏子 武蔵野大学	
2	ボランティア論	近藤 俊嗣 川崎いのちの電話 坂本 典 聖マリアンナ医科大学	5	自己について	田村 敏 東京学芸大学	
3	カウンセリング論	逸見 敏郎 立教大学	6	精神医学の基礎	二宮 正人 聖マリアンナ医科大学	

※ 詳細は決定次第ホームページに掲載予定。

※ 募集要項(申込用紙)は市役所、区役所、図書館等の公約場所入手するか、事務局迄お問い合わせ下さい。

【問合せ】 社会福祉法人 川崎いのちの電話事務局
TEL: 044-434-0253 FAX: 044-411-4891 <http://kawasaki-inochinodenwa.org/>



ハーブ ティー

Herb Tea

相談員のリレー エッセイ

絵本『花さき山』に寄せて

今日まで沢山の絵本に巡り合い、今でも心に残っている本が、誰にでも一冊や二冊はあるのではないだろうか。私にとって『花さき山』がそんな大切な本だ。大好きな作家・斎藤隆介さんの、弱いものや、精一杯に生きるものをみつめる視点や願いが胸を打ち、滝平二郎さんのシャープであざやかな版画が更に感動を与えてくれる。

「おなごわらしのあやが、迷い込んだ山里で目もさめんばかりの一面の花を見る。その花は『やさしいことを一つすると一つさく花』と山に教えられる。やさしさとけなげさが花になってさく」という内容の中に作者の思いがあふれている。

十代の頃にこの本と出会ってから、もう何十年になるだろう。この本を開くたびに、最初の感動がよみがえり、胸が熱くなる。そして、今でも、やさしい心の哀しさと、けなげな愛の強さを伝えてくれる。「私も誰かのために役立ちたい」「大事

な人を守りたい」そう思わずにはいられなくなる。この本は、私が小さい時や、人と向き合うむずかしさを感じた時など、いつも傍らで支えとなってくれている。

日常の中で辛抱が思いやりになり、思いやりがやさしさと気づく瞬間、心の中でふとつぶやいている自分がある。

「今、花を咲かせているのだろうか」「どんな花が咲くのだろうか」と。人を思いやる心は自分を育てること。人を大切にすることは自分が強くなれること。そう思って、いつでも人と向き合い、助け合って心の花を咲かせたいと願っている。誰の心の中にもある心の花の芽が、いつもどこかで人知れず咲いていることを信じて…。何かで立ち止まった時『花さき山』に教えられ、勇気をもって、また歩き出してゆける。背すじをのびして…。

(高津区・ピー子)

今日のハーブ辞典

メキシカンブッシュセージ

比較的ポピュラーで、赤紫色でビロードのような花を咲かせ、ハーブとは知らずに育てている人もたくさんいる。薬用はなく、食用にも適さず、個性豊かな花を楽しむ観賞用のほかポプリやドライフラワーとして用いられる。



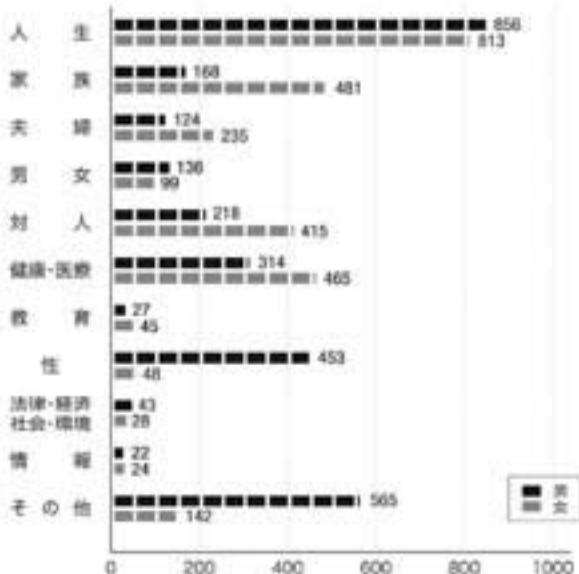
受信状況 2008年5月～8月

総受信数 **7,150件** (1日平均 58.1件)相談数 **5,014件** (1日平均 40.7件)自殺志向 **506件**

通話中に切ってしまう相談者

二つとして同じ人生はありませんが、相談者と共に懸命に心の模索をします。しかし、なかなか通い合えない時、無念さと苛立ちで電話を切られる時があります。「死ぬのが怖い、話せる人がいない」。また、言葉が核心に触れたとき、反動的に切ってしまう相談者もいます。「心に傷があって、その事を考えると不安になる」。誰かに話さずにはいられないほどつらい事実、それに向き合うにはその人なりの時間がかかるのかもしれませんが。

内容別・性別受信状況 (2008年5月～8月)



インフォメーション

川崎いのちの電話主催

チャリティー寄席「柳家権太楼独演会」

—知る人ぞ知る、落語通が見逃さない権太楼落語の独演会！—

- 【日時】 2009年1月31日(土) 開演 13:30
 【会場】 高津市民館 マルイファミリ-12階
 JR南武線「武蔵溝ノ口」、東急田園都市線「溝の口」下車すぐ
 【料金】 3,000円 全席自由(未就学のお子様はご遠慮ください)
 【振込先】 郵便振替口座 川崎いのちの電話事業推進委員会
 NO.00200-1-130682
 (振込確認後チケット郵送)
 【問合せ】 川崎いのちの電話事務局(月～金 10:00～17:00)
 TEL:044-434-0253



柳家 権太楼

昭和45年 明治学院大学法学部卒業
 故郷家づばめに入門、苗字名「はたる」
 49年 師匠他界により柳家小さん門下となる
 50年 ニッポン昇進「柳家さん光」と改名
 57年 高打ち昇進、三代目「柳家権太楼」異名

資金ボランティアとしてのご支援を!

川崎いのちの電話の活動は皆様の資金援助によって運営されています。多くの方々にご協力をいただきますようお願いいたします。

【1】賛助会員年会費 下記からお選びください。

法人	10万円	5万円	3万円	1万円	
個人	5万円	3万円	1万円	5千円	3千円

【2】一般寄付 (金額、回数は自由です。)

【振込先】 郵便振替 00240-2-36798
 社会福祉法人川崎いのちの電話

*賛助会員・一般寄付会ともに、個人の所得税(資産増大申告)・相続税および法人の法人税において、優遇措置の対象となります。

川崎いのちの電話ホームページが新しくなりました

<http://kawasaki-inochinodenwa.org/>

川崎いのちの電話

寄付感謝報告

2008年6月～
2008年9月

川崎いのちの電話のために、温かい資金援助をいただきました。心から感謝し、ご報告いたします。この事業の発展にこれからもご協力くださいますようお願い申し上げます。

【個人】	(7月)	菅原清華	榎津 淳	大久保常明	内田三枝	K・S	白井可津子
(6月)	松林ゆり子	布施高作	和田義盛	鈴木清次	石川 章	梶川明美	中村泰巳
浅田美子	長塚いつ子	松岡信子	藤嶋とみ子	池上由紀子	松浦 紀	野村栄子	吉越サチ子
田中幸治	徳田勢津子	森下重子	壁 義彰	佐藤節男	村上カズコ	松本純子	菅沼和香子
松岡光子	西美恵子	隈崎加代子	野島名菜子	河合真代子	谷貝美代子	西田喜久子	城野 友一
久保美矢子	小倉 知	櫻本昭美子	梶山勝雄	森岡きのぬ	高瀬真由子	堀 洋子	安藤 賢次
藤井たかね	西村典子	深瀬茂子	井上美千代	千葉貞子	大倉紀子	村越法子	小山稀世
高橋 勉	後藤田正一	平山敏子	三枝基行	窪島紀子	吉野八重子	中村カツ子	広島晴美子
中静智子	高橋フサノ	河野恵子	石原敏光	岡本良子	大久保静子	中山厚夫	中静智子
広島晴美	高橋久美子	佐藤千恵子	中村幸夫・文子	内藤英俊	匿名1名	匿名1名	井田 肇
柴田武子	村田紀子	小泉伸之	青木久栄	佐野甫子	近藤俊朗	近藤 俊朗	匿名1名
匿名5名	関谷トヨ子	宮内純子	白井香代子	川北和子	(8月)	(9月)	近藤 俊朗
近藤俊朗	酒井晴恵	箕輪敏行	新井良子	手塚 忠美	古館 太郎	糸山 恵美子	

【法人及び各種団体等】 カトリック百合ヶ丘教会 (株)東洋ロザイ カフェ・セグレート 船橋法律事務所 幼きイエス会田園調布修道院
 川崎御幸ライオンズクラブ (株)ホンダ 明治学院大学心理学科05年度生一同 (株)NSKマイクロプレジジョン エスアイ カワサキ
 (有)八千代不動産 東芝ソリューションズ労働組合 ビーズ工房松浦 日本村々教団三田教会

【10万円以上の個人・法人及び各種団体等】 (株)大和建鉄(10万) 大本山川崎大師平間寺(10万) 川崎いのちの電話製作部(25万)

合計 1,678,060円

編集後記

若林一美著「自殺した子どもの親たち」を読みました。我が子の思いがけない死から始まる長い闇やみ。それまでの言動を後悔し、子どもの変化に気づかなかった自分を責めても、時間は戻らないというどうにもならない現実。彼らの涙を思い、私の涙は止まりませんでした。出口の見えないトンネルの中にいる方、辛い思いをされている方の伴走者になれるのだろうか、自分に問いかけています。(K)

若林先生のインタビューを聞き、人それぞれが抱えている悩みの深さは何層にも何層にも重なっていて、人の心は簡単にわからないはずなのに、ついわかったような気になったり、決めつけてしまったりしていることはないだろうかと自身を振り返りました。そして、わからないのは、なぜわからないのか、それは何なのか、語れない事の背中に想いを寄せることの大切さを感じました。(伊)